

ピノ&アチェロ 3月号



Contents

P1 ごあいさつ

P2 今月の行事予定
来月の行事予定

P2 お誕生児紹介

P3 今月のお知らせ

P4 保健だより

P4 給食だより

ピノ保育園
連絡先

「梅一輪一輪ほどの暖かさ」と松尾芭蕉の弟子、服部嵐雪が詠んだ俳句があります。この俳句には二通りの意味があるそうです。

- ① 「梅が一輪咲き、それを見ると、かすかではあるが、一輪ほどの暖かさが感じられる」と寒さの中ほのかな暖かさにじんわりと心が震える様子
- ② 「梅の花が一輪、又一輪とだんだん咲くにつれて、少しずつ暖かくなっていく」と聞こえ始めた春の足音に心躍らせる様子

皆様どう感じますか？梅は葉が出るより先に花が咲きます。同時期に咲く「サザンカ」や「つばき」が青々とした緑の葉をつけて花を咲かせるのに比べて対比的です。また、これらの木よりも先駆けて咲くというので「さきがけ」とも言います。それは、梅の木が同時期に咲く植物に比べて気温の変化をより敏感に受け止めて、私たち人間が感じない、ほのかな春の暖かさ、近づきを察知しているからなのでしょう。自然の変化を感じながらいつ頃に花を咲かせ、どの時期に実を結ぶかを考えて、それを忠実に繰り返す・・・周りの事を考えながら、誠実に生きている気がします。人間もそうありたいものですね。

さて、今年度もいよいよ残りわずかとなりました。進級に向けてそれぞれのクラスで、無理なく4月から移行できるように保育を進めているところです。各クラスごとの懇談会も予定しております。この一年の成長を共に振り返り、共感し進級へとお子様たちを励ますきっかけになるような会にしたいと思っております。お忙しいこととは思いますが、是非多くの方にご参加いただけたらと思いますので、宜しくお願い致します。

子どもに共感してあげることはとても大切なことです。共感することによって、子どもに共感能力が付き、感情の適切な使い方を学べます。感情の適切な使い方がわかると、我慢強く自己肯定力と自制心が育ちます。自己肯定感が育まれると、3つの心が育ちます。

- ① マイナスに考えすぎない、落ち込みにくい前向きな心
 - ② 失敗を恐れず何事も率先して頑張る、積極的な心
 - ③ 自分を信じ、自分の親を信じる心
- 自制心が育まれると2つの心が育ちます。

- ① キレにくく忍耐強くなる力
- ② 大人になってからの高い社会的能力

<共感していく為の大切な5つのステップ>

- ① 子どもの方を向いて、表情を見ながら話を聞く
- ② 子どもの話は間で折らずに最後まで聞く
- ③ 子どもの言葉を繰り返す（親がちゃんと聞いていることがわかる）
- ④ 話を聞いたら頷いて肯定してあげる（安心感が生まれる）
- ⑤ 否定的な言葉は使わないようにする（自己肯定力が生まれにくくなるため）

今年度も、保護者の皆様には、ご理解とご協力を頂きましてありがとうございました。来年度もよりよい保育ができますよう職員一同、保護者の皆様と共感し合いながら、反省点を生かし、頑張ってお参ります。どうぞ宜しくお願い致します。

園長 小林 由佳

ピノ保育園の『子育て支援通信 ピノ&アチェロ 園だより』の名前の由来「ピノ」は園舎が建つ前が巨峰畑でしたので、葡萄の種類から「ピノ・ノワール」Pinot Noir (フランス語)から名付けられました。「アチェロ」は園庭の木登りのできる樹木が「もみじ」ですので、「アチェロ」(イタリア語)と名付けました。ピノ保育園の特徴的なものから名付けましたので、これから園だよりお楽しみに活用してください。

3月行事予定

- 2日(月) 0歳児保護者会
- 3日(火) ひな祭りの集い(お茶会)
- 1歳児保護者会
- 4日(水) 3歳児保護者会
- 5日(木) 2歳児保護者会
- 6日(金) お別れバイキング
- 7日(土) 新入園児入園説明会
- 10日(火) お別れ遠足(5歳児)
- 4歳児保護者会
- 11日(水) 東日本大震災の日
- 地震・火災訓練
- 12日(木) 絵画造形教室
- 18日(水) 3月生誕生祝会
- 19日(木) 就学を祝う会
- 28日(土) 新年度準備のため
- 家庭保育協力日
- 31日(火) 新クラス移行準備
- さよならの会

4月行事予定

- 1日(水) 入園おめでとうの日
- (新入園児と保護者)
- 15日(水) 4月生誕生祝会
- 16日(木) 絵画造形
- (原田弘美先生)
- 23日(木) 地震・火災時避難訓練



みどりの芝生はだてあそび



おそとで絵本も気持ちいい

P1

お誕生日おめでとうございます



- ★毎月第三水曜日の予定で全園児がホールに集い誕生児をお祝いします。
- ★誕生会での出し物は職員が工夫を凝らし、良い文化を伝える機会にします。
- ★ご本人の誕生日当日は
今年は「おたんじょうびおめでとう ばばあちゃんから」の本をメッセージ付きでプレゼントさせていただきます。
- ★クラスでは一ヶ月間お誕生カードを飾ります。
- ★誕生祝会は栄養士さん手作りの特別献立とおやつにケーキが各クラス毎に届けられます



P2



♥鬼は、外！福は、内！

節分の豆まきをしました。泣いてしまったお子様も、果敢に豆を鬼に投げつけ、心の中の鬼を退治できました。豆をまくというのは、「魔を滅する」という語呂合わせの意味もあると言われています。今年もひいらぎといわしの頭を飾りましたが、そういう一つ一つの昔ながらの日本の伝統をしっかりとこれからも伝えていきたいと思ひます。ご家庭でも一年の無病息災を願えましたか？

♥子ども劇場を0, 1, 2歳児が行いました。

2月14日(土)に、0, 1, 2歳児の子ども劇場が開催されました。昨年は、大雪で中止だったため、心配されていた天気ですが、今年は、寒かったものの、晴天に恵まれました。子ども達なりに、いつもとは違う様子に、おどろいて泣いてしまうお子様もいましたが、舞台上堂々と立ち表現してくれました。立っているだけでもかわいいもも組さん。動物になりきっていたいちご組さん。役になりきりかくれんぼを楽しんでいたみかん組さん。緊張して普段とは、少し違う様子ではありましたが、一年のお子様の成長を保護者の方と共に共感できる良い機会となりました。これからもお子様の五感を刺激する活動を大切にしながら、表現遊びを楽しんで参りたいと思ひます。又、ノートなどで、ご感想を頂きましてありがとうございました。保護者の方々の暖かいお言葉が何よりも、職員一同の励みとなりました。3, 4, 5歳児の保護者の皆様には、家庭保育のご協力を頂きましてありがとうございました。



♥お雛様を飾りました。

女の子の健やかな成長を幸せを願いお祝いする日です。さて、いつから飾って、いつ片づけるか、ご存知ですか？こうしなければならぬという決まり事はないようですが、一説によると、「雨水の日」に飾ると良いそうです。雨水は、温かさに雪が溶けて雨水として降り注ぐ日。昔から農耕の準備を始める目安としてつかわれてきました。今年の雨水は、2月19日。ピノ保育園でも、この日に飾りました。さて、片づける日ですが・・・「啓蟄」の日3月6日頃が良いとされています。「片づけが遅れると、婚期が遅れる」とよく言われますが、ただの迷信で「片付けがちゃんとできないようでは、きちんとした女性になれず、お嫁さんにもなれませんよ！」と、しつけを込めた言い伝えだそうです。大事なものは、天気！雛人形にとっては、湿気が大敵！天気の良い日にしまうことで、カビやシミ対策にもなるそうです。雛あられや菱餅、白酒等、日本の伝統には、きちんと理由があり、様々な意味が込められています。園でもしっかりと子ども達に伝えていき、皆で、雛祭りを楽しみたいと思ひます。



子育て支援通信「ピノ&アチェロ」平成27年3月号

発行日：平成27年3月2日(月)

発行所：社会福祉法人大樹会ピノ保育園

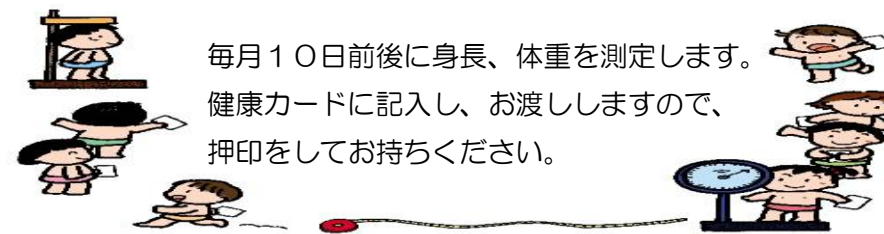
住所：伊奈町小室字丸山1027-2

TEL：048-720-4152

FAX：048-812-4509

園からのメッセージ・毎月の行事・お誕生児紹介
クラスメッセージ・子育てワンポイント・看護師から
給食便り等保育情報をお知らせしていきます。

保健だより



毎月10日前後に身長、体重を測定します。健康カードに記入し、お渡ししますので、押印をしてお持ちください。

◆3月3日は耳の日♪

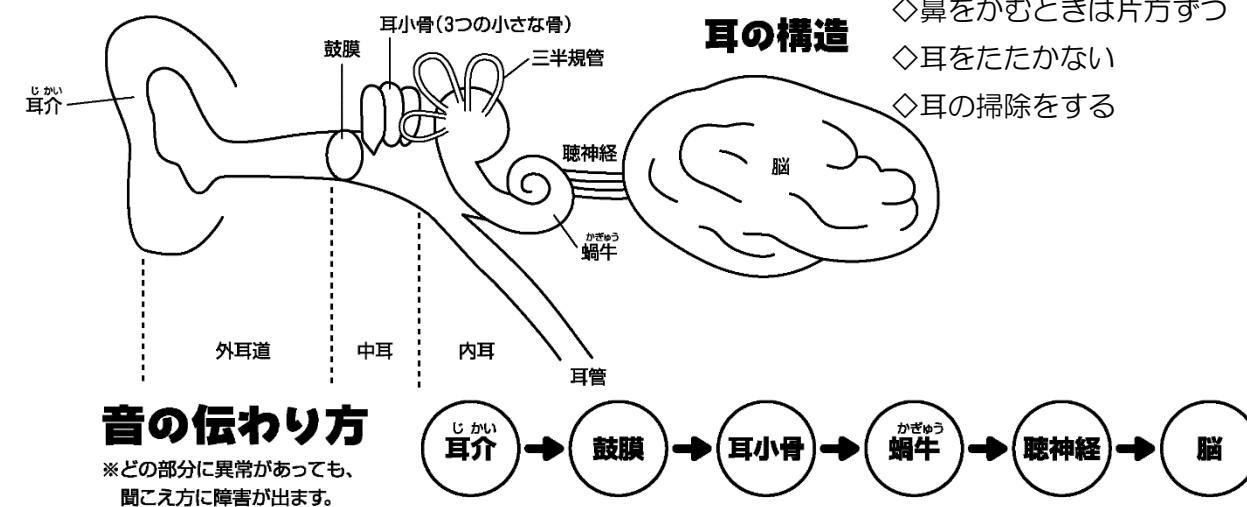
単に語呂合わせの「み(3)み(3)」という意味もありますが、ヘレンケラーの先生であったアン・サリバン・ナーシー女史が幼いヘレン・ケラーに対し献身的な指導を始めた日とも言われています。

～耳の役割～

- ◇音を聞き、音の方向や遠近を聞きわける。
- ◇体のバランスを保つ。

～耳を守るために～

- ◇耳の近く大きな声や音を出さない
- ◇鼻をかむときは片方ずつ
- ◇耳をたたかない
- ◇耳の掃除をする



◆花粉症の時期です・・・

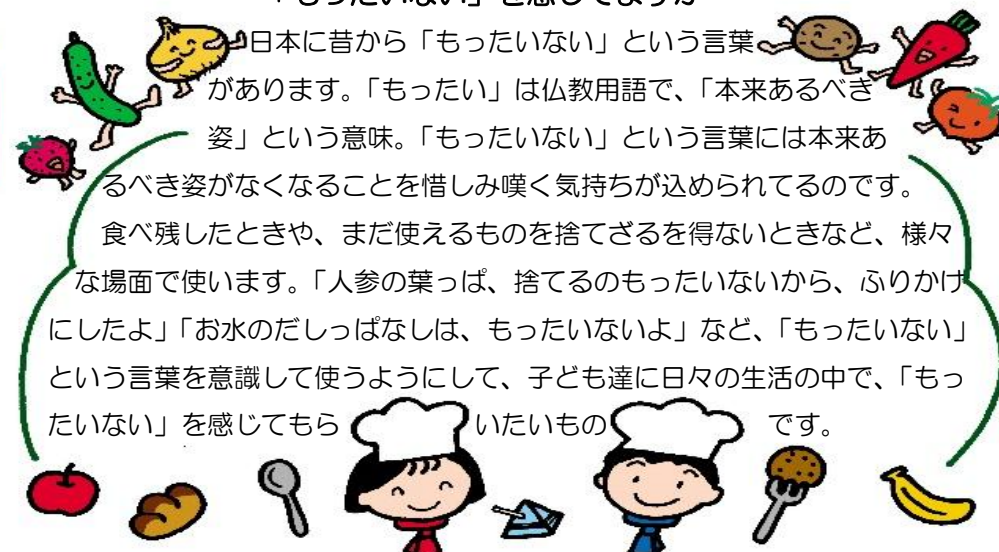
花粉は、良く晴れた日(前日雨が降った時)や風が強く空気が乾燥しているとき、気温の高い日などに良く飛びます。防止対策としては、外出するときはメガネ、帽子、マスクをする。外出後家に入る前に、服や髪の毛についている花粉を落とす。うがいをする。バランスのよい食事をする。室内に花粉が入らない様に窓を閉める。等があります。症状としては、目のかゆみ、瞼のはれ、水のような鼻水が止まらない、くしゃみが連続して出るなどですが、個人差があります。花粉かな?と思ったら、病院で原因となる花粉を調べてもらい、治療の相談をしましょう。



給食だより



「もったいない」を感じていますか



日本に昔から「もったいない」という言葉があります。「もったい」は仏教用語で、「本来あるべき姿」という意味。「もったいない」という言葉には本来あるべき姿がなくなることを惜しみ嘆く気持ちが込められているのです。食べ残したときや、まだ使えるものを捨てざるを得ないときなど、様々な場面で使います。「人参の葉っぱ、捨てるのもったいないから、ふりかけにしたよ」「お水のだしっぱなしは、もったいないよ」など、「もったいない」という言葉を意識して使うようにして、子ども達に日々の生活の中で、「もったいない」を感じてもらいたいものです。